

経営協議会学外委員からの指摘事項への対応について(平成23年度対応済み分)

広島大学

事 項【意見抜粋】	本学の対応	対応室	指摘回	対応状況
<p>グローバル人材の育成(国際的な視野の拡充、留学後のフォローアップ等)について                  【国際化のため、学生を海外へ留学させるといった話はよく聞かすが、外国の留学生の受入を一層促進し、日本人学生と一緒に生活させたり、英語の授業を増やしたり等の国際的な視野が広がるような工夫も必要なのではないか。】                  【学生の海外派遣プログラムに参加する学生は、将来的な自分のキャリア等についてかなり積極的なことが伺える。そのことを踏まえ、留学後のフォローアップ(後に続く学生に伝えていくようなしなかけ作り等)について大学で是非取り組んでいただきたい。】</p>	<p>・現在、留学生と日本人学生の交流の場を提供するため、4月と10月を中心に国際交流ランチを開催。昨年は職員主体だったが、今年6月からは学生主体で開催している。また、日本人学生と留学生を対象とした国際交流ボランティア制度により、学内外の交流イベント情報を発信している。さらに、昨秋より会話パートナー制度を拡充し、全学の日本人学生・留学生を対象に募集し、57組の会話パートナーをアレンジした。今年度も新学期開始後に募集をかけ、5月12日に会話パートナー希望の日本人学生・留学生約110名を対象に、パートナー決めを行い25組をアレンジした。また、学内外の国際交流活動の推進のため、6月から同活動補助のフェニックス・アシスタント(PA)を2名(日本人学生、留学生)雇用し、さらなる活発化を図っている。                  ・現在、国際交流会館の窓口対応としてフェニックス・アシスタント(PA)を日本人、留学生各2名ずつ雇用し、入居者の対応をする中で異文化を体験し、理解する場を提供している。                  ・池の上学生宿舎は、日本人学生と留学生の混住となっており、現在168名の留学生が入居している。                  ・留学後のフォローアップについては、学生の海外派遣プログラムによる参加学生が、同様のプログラムで留学・海外渡航する後輩学生にアドバイスをしたり勉強会を開催している。国際センターとしては、勉強会やミーティングを設定をサポートし、学生の自主的な活動を促している。具体的には、昨年度より開始したSTARTプログラムでは、昨年9月に参加した学生たちが、今年3月に派遣した学生たちに1月から2月にかけて、勉強会を開催した。また、HUSAプログラムでは、先輩学生の了承の下、後輩学生に先輩学生の連絡先を2月に公開し、今夏からの留学準備のアドバイスを受けられる体制を構築している。                  ・フォローアップ充実策として、平成22年度までは、留学フェアとして交換留学プログラムの紹介と先輩学生からの紹介を1日で行ってきたが、今年度は「留学WEEK」として学内の各種プログラムの紹介や先輩学生からの体験談紹介を4日間(H23.5.16-5.19)実施した。また6月1日より留学経験のある学生2名をPAとして採用し、従来の窓口業務に加えこのPAが留学希望者に対し留学相談を行う体制を整備した。</p>	平和・国際室	第29回 (23.1.20)	対応済 (23.6.23 報告)
<p>学生の長期海外留学促進方策の策定・実現について                  【広島大学には、現在1,000人超の留学生が来ているようだが、それとほぼ同数の広島大学の学生を海外に派遣する方策を策定し、実現することが重要である。最近短期の海外派遣プログラムが活発化してきたが、これはあくまでも入口で、これをきっかけにして長期留学へつなげる次のステップが必要だ。基本的に異文化理解のために相互に行き交うことが大事なことだと思う。】                  【自分たちから海外へ出ようという学生は少ないように思う。海外へ出る学生には、何か1つは日本の文化を持って行ってほしい。自分の生まれた国、地方などを含めて誇りに思っていて海外で話せることが重要だと思う。】</p>	<p>平成23年5月1日現在、本学に在籍する1,090人の外国人留学生の内訳は、学位取得を目的とする正規生(学部生、大学院生)887人、大学院進学等を希望する研究生等が150人、残り53人が交換留学生(自大学に在籍したまま本学に留学する者)である。このことを踏まえ、長期留学につなげる派遣留学を考えた場合、前提として、本学に在籍したまま留学すること、つまり、そのほとんどが学位取得を目的としない学生となる。その上で、長期海外留学促進方策の策定・実現については、以下の取り組みを行うこととしている。                  平成22年から開始した新入生を対象とする短期のSTARTプログラムを始め、全学の学生を対象としたプログラムや各部局で実施する研修(語学研修を含む)等の実施により、平成22年度の短期を含めた派遣留学生数は261人である。ただし、本学を卒業又は修了した後に、外国の大学に留学した者の実績は、残念ながら把握していない。                  なお、平成23年3月以降、①留学案内パンフレット「留学のススメ」の発行・配布、②留学案内週間(留学WEEK)の開催、③留学経験学生を留学アドバイザーとして雇用し、学生プラザに留学相談窓口を設置、④留学関連説明会の開催、⑤留学報告会の開催等、各種新規の取り組みを行っており、平成23年度の短期を含めた派遣留学生数は300人を超えるものと思われ、着実に増加している。また、STARTプログラムに参加した学生の中には、中長期の留学を真剣に考える者もあり、これらの取り組みの成果が少しずつ現れているものと考えられる。</p>	平和・国際室	第32回 (23.9.13)	対応済 (23.11.25 報告)
<p>TOEIC試験の受験の徹底及び経年評価の実施について                  【全学部で行われているTOEIC試験は、全員参加が原則でありながら、部局によって差があり、徹底されていないことは問題である。広島大学がグローバル人材の養成を掲げるのであれば、受験や入学の段階で徹底的に周知すべきである。また、得点ごとの人数分布よりも、経年変化を確認し、それに対する評価を行うことが重要である。】</p>	<p>全学で実施しているTOEIC試験は、毎年実施日が決まっており、実施日の5ヶ月前に各学部に対して周知している。学生に対しては学生向け情報ポータルサイト「もみじ」へ掲載、さらに、英語授業における担当教員からも周知を図っている。受験率は、法学部法学科夜間主コースや経済学部経済学科夜間主コースの2年次生が低く、それ以外の学部は、ほぼ全員受験している。                  また、受験や入学段階では、大学説明会や各学部における新入生ガイダンスにおいて、TOEIC試験の目的等を周知している。                  全学及び各学部のTOEIC試験結果の経年変化が確認できるデータを外国語教育研究センターのHPIに公開している。外国語教育研究センターにおいて、データ分析等を行い、外国語学習用のマルチメディア環境の整備、e-learning教材の提供による外国語の自習環境整備、授業実践方法の改善を行うなど教育の質の向上に努めている。                  現在、各専攻プログラムでの卒業時における外国語運用能力の目標設定について検討している。</p>	教育室	第32回 (23.9.13)	対応済 (23.11.25 報告)
<p>被災地への支援について(教職員/学生)                  【これからの福島への支援がグローバル人材の育成につながると考える。被災地の復旧と復興に当たって様々な学問分野を投入して様々な問題に対応していかなければならない。そこに学生も連れて行けば、学生にとっても良い経験になる。】</p>	<p>平成24年度に開設する大学院博士課程リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」において、福島県立医科大学、福島大学との連携フィールド・ワークを実施する予定にしており、その中で学生に現地で被爆者、被災者を通じた教育を行う。</p>	教育室	第32回 (23.9.13)	対応済 (23.11.25 報告)